

R80 自分の考えをパッと80字で論理的に書けるようになるメソッド 中島博司(著)

単行本：184 ページ
出版：飛鳥新社
価格：1,400 円 (税込)

はじめに

ChatGPT など文書生成 AI の浸透により、文章をゼロから書くことが少なくなりつつあるように感じます。文章作成は思考力や論理力、そして話す力を身につけるために有効な手段です。著者が確立した R80 とはどのようなものなのでしょうか。

R80 とは

R80 は「アールエイティー」と読み、R はリフレクション（ふりかえり）とリストラクチャー（再構築）の R です。80 は、80 文字以内で書くという意味と筆者は述べています。そして R80 による文章作りルールは下記の2つです。

- ① 2 文構成で 80 文字以内
- ② 2 文目の最初に必ず接続詞を使う

筆者はもともと国語の先生ではなく、日本史の教師でした。その指導法が認められ、教科書の執筆をするようになったそうです。この仕事における最大のポイントは**一文を短くすること**で、長文になると編集長から下記のような指摘をされていました。

「一文は 50 字以内ですよ。長文になったら必ず 2 文にしましょう」

この経験から完結で論理的な「教科書の文体」を意識するようになったとのこと。

東大現役合格者の共通項

とある高校の進路指導部に所属していた著者は東大へ現役で合格した生徒の共通項を見つけます。それは「現代文の偏差値が高い」ということです。文系理系問わずこういった結果が見られていたようで、著者は現代文で好成績を収める生徒には「論理力」

があるためだと解説しています。この論理力は入試だけではなく、社会人こそ問われる時代になっています。それは冒頭で触れた AI に関しても同じことがいえ、AI を活用するためにはいかに上手に指示を出せるかという論理力が必要になるからです。

なぜ 2 文で 80 文字が良いのか

7 年前に茨城県の 1 校からはじまり、現在では全国推定 1000 校以上が導入されている R80 は文章を書くことに苦手意識を持っている方向けにうまれました。

「1 文目（40 字前後）+接続詞+2 文目」という R80 のシンプルなルールと構造だからこそ応用がききます。なぜなら 400 字で書くというお題が出されたとしても「R80 を 5 回」とすぐに対応できるからです。1 文 40 文字という字数も理にかなっており、検証してみると下記の文章が同じように 40 文字程度で構成されていると筆者は解説しています。

- 放送メディアのニュース原稿
- 美術館の作品横の解説
- Word の初期設定の一行あたりの文字数
- ChatGPT が生成する一文の文字数

逆にいえば国の省庁などが作成する「公用文」は一文がとても長く、文章内に情報が多くなることから読みづらくなると補足しています。つまり R80 のルールは教科書の文体を意識しているために、書いた文章が一通りにしか読むことができず正しく伝えたい情報を届けられるからです。

本書は実際の例文も提示しながら分かりやすい文章で書かれています。そして読んだその日から試してみたい R80 を社内でも取り入れてみたくなるおすすめの一冊です。